

東住吉区の 都市景観資源紹介



東住吉区の都市景観資源

大阪市では、東住吉区の都市景観資源の発掘のため、「自慢の都市景観」を募集し、大阪市都市景観委員会の審議を経て、平成30年3月23日に26件を都市景観資源に登録しました。

1. 下高野街道

しもこうやかいどう



◆所在地

東住吉区北田辺1丁目～矢田7丁目

◆概要

律令制度の崩壊によって、天皇家が奉祭する神道(しんとう)が衰退し、熊野詣がすたれていった。それに代わって、大衆仏教が興隆し、真言宗総本山の高野詣が、京都の天皇や公家ばかりでなく、武士や庶民にまで広がった。そこで、京都方面から淀川を舟で下って高野山に行く高野街道の1つとして、下高野街道が伝わっている。さらにこの街道は、大阪と堺、松原、狭山の村々を結ぶ生活道路としても発達したため、曲がりくねった長距離の街道となったものと推察される。



2. 庚申街道沿いの旧北田辺村の町並み

こうしんかいどうぞ

きゅうぎただなへむら

まちな



◆所在地

東住吉区北田辺6丁目

◆概要

庚申街道は四天王寺南大門から南下し、庚申堂(四天王寺庚申堂)を過ぎ東南方へ蛇行しながら文の里を通り、桃ヶ池の北端で東に折れ、旧北田辺村の北辺(この通り)を横断する。そこから、さらに東へ駒川を越え今川で川沿いを南下、針中野(旧中野村)、湯里(旧湯谷島村)、旧住道(すんじ)村を過ぎ、大和川に突き当たると川沿いに東へ古市街道と出合う明治橋北詰(旧川辺村)にいたるといいう街道である。

江戸時代の北田辺村は、大坂近郊の農村で木綿や田辺大根などの生産地であったが、庚申街道は四天王寺参りや庚申参りをする信仰の道であるとともに、日常的には牛馬車を使って農作物や肥料の運搬に利用されていた。

北田辺6丁目あたりは、今も昔からの町並みが残されている。



3. きたたなべ おおくす 北田辺の大楠



◆所在地

東住吉区北田辺 6 丁目 2 番

◆概要

市道(昭和町一西脇町)が計画され、大阪市が移転(撤去)を決定した時に、道路用地内にあった樹齢 300 年、周囲 3.3m、高さ 16m の大木を保存する運動が地元民から起きた。地元民の有志が「北田辺の大楠の保存を考える会」を発足し、6000 名の保存署名を集め、公聴会で 57% の保存要求決議を経て、存続が決まったものである。

道路工事は、平成 9 年(1997 年)に主な工事を終え、平成 13 年(2001 年)2 月に完了している。

4. いまがわ いまがわりよくどう 今川と今川緑道



◆所在地

東住吉区杭全 1 丁目～湯里 6 丁目

◆概要

今川は、平野区喜連西町と東住吉区湯里町との境界線と、長居公園通の交差点に、現在の今川の水源である人工の吐水口があり、平野下水処理場で高度処理された水が注ぎ込まれている。昭和の中頃までは、沿岸には田園地帯が多く、フナ、ナマズ、トンボ、シラサギなどが生息していたが、沿川の都市化に伴い固有水源を失い、降雨時以外は水枯れをおこすなど、河川環境が悪化していた。しかし、下水処理水が水源とされてからは、魚類が戻るなど、良好な河川環境が形成されている。

今川緑道は、平等橋を北上し、南港通と交差する川原橋までの 250m 程の間は、桜並木とユキヤナギが美しいところである。国道 25 号線との交差手前がある水門までの北側の緑道(2.1km)とは、南港通で分断されて、並木の様子も異なっている。北側の堤では、戦前は漆並木が有名であったが、南側の堤は松並木であった。この堤は冬には大阪湾の風が定常的に東向きに吹いていたので、松並木を背にして、東向きに多くの子供達が凧揚げに夢中になった場所である。南港通りの北側緑道は南側よりも 9 倍も長い桜並木で、戦前は漆並木で有名な「漆堤」の名称があった。面積約 21,000 m²、昭和 58 年(1983 年)3 月開園。



5. くまたこうさてんりっきょう 杭全交差点陸橋



◆所在地

東住吉区杭全 3 丁目、6 丁目

◆概要

国道 25 号(奈良街道)、森小路大和川線(今里筋)、美章園街道という幹線道路が交差し、大阪市内でも有数規模の五差路交差点である。

この交差点は昭和 35 年(1960 年)までは、ロータリーであったが、昭和 35 年(1960 年)7 月に交差点内に信号機が設置されロータリーがなくなった。杭全交差点には横断歩道がなく、昭和 43 年(1968 年)に設置された歩道橋が交差点に進入する 5 方向からのそれぞれの歩道をつないでいる。森小路大和川線の工事は戦前から始められていたが、戦争期中断をはさんで全線が開通したのは昭和 47 年(1972 年)である。

歩道橋が設置された当初は、歩道橋には自転車及び車椅子等のスロープが設置されておらず、自転車が認められた歩道を走行した場合、交差点で行止まり状態になっていた。様々な問題点を解決すると共に老朽化した歩道橋の取替について平成 18 年(2006 年)より国と地元で協議され平成 25 年(2013 年)5 月より架替工事が開始され、平成 26 年(2014 年)10 月にエレベーターがついた陸橋として利用が開始された。(歩道橋部分は平成 26 年(2014 年)6 月利用開始)

6. くまたじゅうたく ひらのにしのちょう なかちょうかいいかん 杭全住宅(平野西之町) および中町会会館



◆所在地

東住吉区杭全 7 丁目、8 丁目

◆概要

昭和 3 年(1928 年)に建設された大阪市営の分譲住宅である。

大阪市では、生活の安定と良好な保健衛生を確保させることを目的に、快適な土地付き小住宅の分譲を行っていた。大正 15 年(1926 年)に北畠、昭和 2 年(1927 年)に高見、都島、元今里が建設され、杭全住宅を含め合計 458 戸が分譲された。当時の住宅は敷地 25 坪、建坪 18 坪程度の木造二階建て、畳建具・浴室・門扉・水道・電灯などの設備を施したものであった。なお、杭全住宅を最後に大阪市による分譲住宅建設は終了した。

7. くわづかんごうしゅうらく 桑津環濠集落



◆所在地

東住吉区桑津3丁目

◆概要

中世の摂河泉(せっかせん)一帯には、堺、平野をはじめとして、多くの環濠集落が成立していた。環濠集落建設の目的は一般的に、軍事的警察的自衛、保水灌漑、洪水対策の三つであるといわれている。

桑津の場合、軍事的警察的自衛手段として四周を水濠に囲まれ、竹藪で一部囲まれていた。外周の濠の東南部に2カ所、金蓮寺(こんれんじ)東側に2カ所、それぞれ少しずつ離れて濠が広がって池となっていた。外部に通じる集落内の道路は、ゆるいカーブのある直線道路が一本あるだけで他は複雑な屈曲をみせており、北に1カ所、南に1カ所、西に1カ所の計3カ所だけで、現在でもその地名として桑津北口・桑津南口などが残っている。これら入口には木戸が設けられ、夜間は閉ざされていた。

また、保水灌漑として集落内の排水溝と考えられる箇所として、西側の南北に通じる道路は現在も低くなっている。

さらに、洪水対策としては、桑津環濠集落は上町台地の東縁の緩傾斜地で外側とはっきりした段差が認められており、集落東側の川が氾濫しても集落内が浸水しにくくなっていた。

桑津環濠集落は昭和はじめ頃まで、およそ400年間続いていた。今では、濠は埋められて道路に変わったが、細くて曲がりくねった道や、木戸口に祀られていた地蔵尊は今も残され、往時を偲ばせている。

あまつかむやしる くわづてんじんしゃ
8. 天神社 (桑津天神社)



◆所在地
東住吉区桑津3丁目4番17号

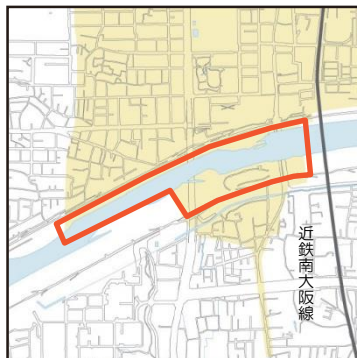
◆概要
「日本書紀」によると応神天皇(4世紀)の頃、日向(ひゅうが)の国から美女の誉高い、髪長媛(かみながひめ)を召され桑津の地に住まわせた」と記されている。媛はのちに仁徳天皇の妃とされた。

髪長媛は桑津天神社に奉祀される以前は、明治6年(1873年)廃寺となった金蓮寺が髪長媛の宮跡であったことから、境内の八幡宮に奉祀されている。また桑津天神社には少彦名命(すくなひこなのみこと)も祀られているが、これは髪長媛の病氣祈願のため医薬の祖神である少彦名命が祀られたと伝えられている。

また、桑津天神社南側の桑津公園はもともと参道であり公園の南側には大鳥居(天保4年(1833年)設置、昭和54年(1979年)改築)がある。



やまとがわ ひがしすみよしく
9. 大和川 (東住吉区)



◆所在地
東住吉区公園南矢田4丁目、矢田5丁目、7丁目

◆概要
大和川付け替えの功労者、中甚兵衛(なかじんべえ)は僅か8ヶ月の工事期間で大和川の付け替えを完成し、東大阪の広大な地域の被害を解消しただけではなく、この地域の干拓工事により得た新田の払い下げにより、2年間で幕府が支出した工費を回収する快挙を為し遂げた。

川幅が広く、東西に眺望が開けた場所であり、河川敷には、スポーツや遊びが楽しめる広場や、散策・サイクリングの可能な歩道も整備されており憩いの空間となっている。

また、大和川沿いの大和川東公園(昭和63年(1988年)3月31日に開園した、大阪市都市公園の一つ。主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園(近隣公園)で、面積は12,552㎡。)には、桜並木があり花見の時期には多くの人々が訪れる公園となっており、地域の方々に親しまれている。



10. 枯木八幡宮

かれきはちまんぐう



◆所在地

東住吉区公園南矢田4丁目5番

◆概要

旧枯木村の古い町並みの中に、さりげなく枯木八幡宮がある。かつての枯木村という地名に由来する社名の小さな神社である。祭神は火雷神(ほのいかずちのかみ)で、雷除や火災予防の神様とされている。由緒は不明だが、境内の土を屋根土に混ぜておくと、落雷しないとの伝承がある。今も枯木町八地保存会が、中秋の名月の前日に阿麻美許曾神社の神官のもと、例大祭をご奉仕している。

11. 駒川商店街

こまがわしょうてんがい



◆所在地

東住吉区駒川4丁目~5丁目

◆概要

10の商店会(昭和商店会、駒川日之出商店会、駒川ギンザ商店会、センター駒川商店会、駒川中央商店会、駒川南商店会、針中野駅前通り商店会、駒川オレンジ通り商店会、鷹宮(たかみや)南商店会、駒川コスモス通り商店会)で「駒川商店街」は形成されている。

全長730mの中に日常生活に密着した物販や飲食、サービスなどおよそ200店舗が集積し、多くの人で賑わっている。また、100円商店街やバル、まちゼミ、セレッソ大阪に関連したイベント等を多数実施している。

さらに毎年、夏に実施している「駒川まつり」では、約4万人が集まり、東住吉区最大級のイベントとなっている。

12. なかとみすむちじんじや 中臣須牟地神社



◆所在地

東住吉区住道矢田 2 丁目 9 番 20 号

◆概要

中臣須牟地神社は、延喜式内(えんぎしきない)の大社で、中臣氏の祖先であり大和王権に仕えた一族、子孫が在住した由緒ある神社である。

日本書紀などには、632 年、唐からの使者に中臣須牟地神社で作ったお酒を振るまったとの伝承がある。



13. さけきみづかこふん 酒君塚古墳



◆所在地

東住吉区鷹合 2 丁目 5 番

◆概要

東住吉区東部にある鷹合・桑津・山坂の一带には、かつて大きな古墳群があったことが、江戸時代の地籍図や古墳にまつわる伝承などから推定されている。駒川上流右岸にある鷹合の酒君塚古墳は、近年の発掘調査によって、江戸時代以降の盛土下に、長径 35m 以上、高さ 2m 前後の古墳の墳丘が確認された。

さらに、出土した円筒埴輪から築造時期は四世紀末で、田辺古墳群では最も古い古墳であることも明らかになった。酒君塚古墳(平塚)は、御勝山古墳に次ぐクラスの平野川に至る駒川・今川水系の首長墓であり、田辺古墳群の被葬者の頂点に立った倭王権とも関わりの深い人物であったとされている。

酒君については「日本書紀」の仁徳天皇四三年の条に、「依網屯倉阿弭古(よさみのみやけあびこ)が、不思議な鳥を捕まえて天皇にさしあげたところ、天皇はその鳥が鷹であることを知られ、百濟王の一族である酒君に命じて鷹を養わせた。」とある。

